《Camera Lucida》2004年

高谷史郎 | 明るい部屋

TAKATANI SHIRO | Camera Lucida

2013年 12 月10日(火) — 2014年 1月26日(日)

高谷史郎は、国際的な芸術家集団ダムタイプの芸術監督として、パフォーマンスやインスタレーションの制作に携わり、映像、照明、グラフィックや舞台装置デザイン等を手がけてきました。最先端の技術を駆使した映像やパフォーマンスの可能性を追求しながら、個人の活動では、映像作家として、自然環境や物理現象への深い洞察に基づく作品や、音楽家ほか多彩なジャンルのアーティストとの協働作品を制作し、とりわけ近年では、光学的な関心から写真シリーズも発表しています。

東京都写真美術館では、映像作家である高谷の活動の原点となる写真と映像の歴史を、当館の映像コレクションと連動しながら、その幅広い活動を紹介する美術館における初個展を開催いたします。

会場：東京都写真美術館　地下1階展示室
主催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
協賛：凸版印刷株式会社
協力：NECディスプレイソリューションズ株式会社、
　　山口情報芸術センター[YCAM]、comos-tv
後援：サンケイスポーツ／夕刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／iza！／SANKEI EXPRESS

東京都写真美術館
広報担当：久代、平澤、前原
Tel. 03(3280)0034

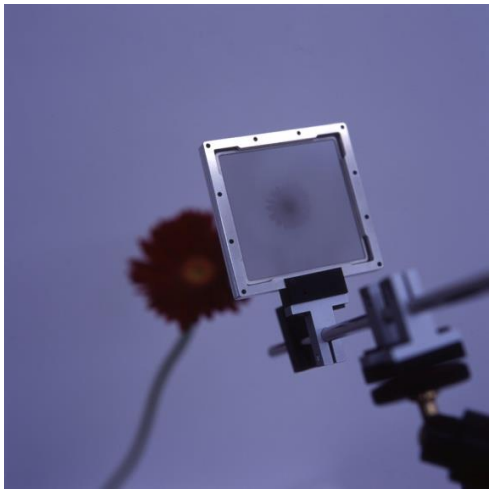
高谷史郎 | 明るい部屋
TAKATANI SHIRO | Camera Lucida

概要

本展覧会のタイトルである「明るい部屋」とは、哲学者ロラン・バルトによって1980年に書かれた写真論の題名であり、画家が風景を手元の紙の上に映し出すために用いた光学装置カメラ・ルシダ（camera lucida、ラテン語）※1を意味しています。カメラ・ルシダは、今日のカメラの原型とも呼ばれる「暗い部屋（暗箱）」＝カメラ・オブスクラ（camera obscura）※2が、針穴（ピンホール）から入ってくる外光によって倒立像を投影するのとは異なり、「カメラ」（部屋、箱）と呼べる部分を持たず、プリズムや鏡とレンズだけで目の前にある対象物を映し出します。「写真ができる（像が結ばれて定着する）過程は暗箱というブラックボックスの中で起こっているけれども、すべてを明るみのもとにさらすような、そんな構造の舞台をつくってみたかった」として、高谷はパフォーマンス「明るい部屋」を2008年に発表します。 舞台そのものをカメラ・ルシダにすることで、高谷はバルトが考えた写真というものに近づこうとしました。

バルトは、写真の本質を、「それは=かつて=あった」という実在との関わりに見出しています。絵画は対象を摸倣することができても対象そのものを映し出すことはできません。しかし、写真は対象そのものを映し出し、それ自体が関わる記憶や存在感といったものを、観る者に想起させます。高谷にとって、写真は、あらゆるメディア表現の原点として存在しているのです。

本展では、インスタレーションとして制作された《Camera Lucida》（2004）、《Toposcan》《Topograph》シリーズ(2012)より初公開の新作などを紹介するほか、当館のコレクション作品で、高谷の活動の原点である写真映像の歴史を検証します。今回発表される多岐にわたる形式の作品群は、写真や映像装置のしくみを明らかにしながら、改めて現在「みる」とは何かを観客に問いかける貴重な機会を与えてくれるでしょう。



《Camera Lucida》2004年

パフォーマンス《明るい部屋》2012年　撮影：福永一夫

※1 **カメラ・ルシダ**（camera lucida）
画家が風景を手元の紙の上に映し出すために用いた描画補助のための光学装置のこと。「カメラ」（部屋、箱）と呼べる部分を持たず、光のプリズムや鏡とレンズだけで目の前にある対象物を映し出すことから「明るい部屋」とも呼ばれる。
[参考図版] Ⅰ：カメラ・ルシダ 19世紀／Ⅱ：カメラ・ルシ―ダ 制作年不詳　東京都写真美術館蔵

※2 **カメラ・オブスクラ**（camera obscura）
ラテン語で「暗い部屋」を意味し、針穴（ピンホール）から入ってくる外光によって倒立像を暗箱（暗室）の内壁に投影する光学装置のこと。現在のカメラの原型。

[参考図版]　Ⅰ　Ⅱ

出品作品（計47点）

《Camera Lucida》(2004)、「事後と沈黙」(2013)

「mirror type k2」(2013)、《Cloud》(2007)

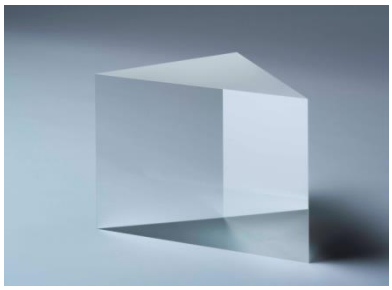
《frost frame/Europe 1987》(2013)、《Chrono》(2006)（2011）《Topograph/La chambre claire》（2013）、「Toposcan」(2013)

パフォーマンス：明るい部屋（抜粋）(2010)

Masterworksより(東京都写真美術館所蔵作品13点）

アンドレ・ケルテス《ブロアの交差点》1930年、ウィリアム・クライン《ブロードウェイと103ストリート、ニューヨーク》1955年ほか

《Camera Lucida f85mm》 2004年



「mirror type k2」2013年

本展のみどころ

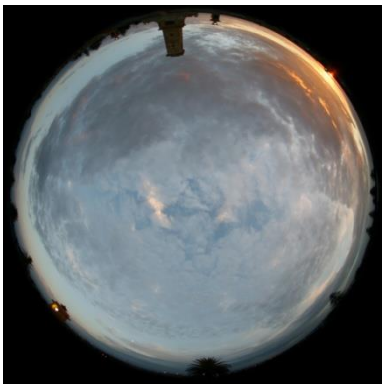
新しい技術を積極的に取り入れながらも、「みる」という原点を追求する
高谷の作品群と、当館が誇る写真の名作コレクションによる展示をお楽しみください。

①「みる」とは何か？ カメラの原点に迫る≪Camera Lucida≫シリーズ

《Camera Lucida》(2004) はレンズを通して対象物がピントグラスに像を結ぶというカメラの原点の仕組みを、非常にシンプルな手法で構成し、装置そのものを通して「みる」ことについて検証する作品です。また、写真史に多大な影響を与えたロラン・バルトの『明るい部屋』で言及された作家による歴史に残る名作を展示します。

② 新作のデジタルテクノロジーが写しだす視覚体験に注目

魚眼レンズを使って全天の空を日の出から日没まで5秒毎に 撮影した2万枚に及ぶデジタル写真。それらを連続してつなぎ、太陽の運行や雲の動きを約 4分に凝縮させた映像によるビデオ・インスタレーション《Chrono》(2006)、「Toposcan」「Topograph」シリーズ（2012）の新作のほか、写真の起源に迫る、プリズムや鏡を用いた新作を発表予定。なかでも高解像度のラインスキャンカメラ（1ピクセルのラインをスキャンするように撮影するカメラ）によって撮影した画像によるビデオ・インスタレーション《Toposcan》と、そのディテールを新たにプリントする《Topograph》は、現在のテクノロジーが作りだした機械による視点が人間の視覚では捉える事のできない、新しい現実を浮かび上がらせます。



《Chrono》Fremante,Australia
32° 3' 9.65"S,115 ° 45' 25.21"E
07:28:01
10 September 2006
2006年

③ 新春特別アーティスト・トークを開催！

高谷氏と親交の深い、音楽家・坂本龍一氏、批評家・浅田彰氏をゲストに迎え、今回の個展をスタートに、これからのプロジェクト、社会とアートの関係などさまざまに語っていただきます。

※イベントの詳細は4ページをご覧ください。

略 歴

高谷 史郎（たかたに しろう）

1963年　奈良県生まれ
　　京都市立芸術大学環境デザイン科卒業
1984年　「ダムタイプ」※3の創設メンバーとして活動に参加、
　　パフォーマンスやインスタレーションの創作に携わり，
　　ビジュアルワークを相互的に担当；活動と並行して個人での制作を開始
1998年　インスタレーション《frost frames》
1999年　坂本龍一氏オペラ《 LIFE 》の映像ディレクション
2000年　インスタレーション《optical flat》（国立国際美術館蔵）
2001年　霧の彫刻家・中谷芙二子との共同制作インスタレーション《IRIS》（バレンシア・ビエンナーレ,スペイン）
2005年　「雪と氷との対話」展（ラトビア国立自然史博物館）に参加
2006年　インスタレーション《Chrono》（日豪交流プロジェクト,オーストラリア）
2007年　坂本龍一との共同制作インスタレーション《LIFE – fluid, invisible, inaudible…》（山口情報芸術センター［YCAM］）；気候変動について考えるための北極圏遠征プロジェクトCape Farewell(イギリス)に参加
2008年　パフォーマンス《 Die Helle Kammer(明るい部屋) 》初演（Theater der Welt ,ドイツ）
2010年　中谷芙二子との共同制作インスタレーション《 CLOUD FOREST 》(YCAM)
2011年　渡邊守章演出《マラルメ・プロジェクトⅡ》（京都芸術劇場春秋座)映像・美術を担当
2012年　パフォーマンス《CHROMA》初演（びわ湖ホール）
　　「吉左衛門X：高谷史郎・音/ 映像＋樂吉左衛門・茶碗」展（佐川美術館）
2013年　《composition》（シャルジャ・ビエンナーレ、アラブ首長国連邦）
　　パフォーマンス《CHROMA》（マルセイユ・フェスティバル,フランス）
　　《LIFE-WELL》坂本龍一，野村萬斎とのコラボレーション(YCAM)等

※3 **ダムタイプ**
1984年に京都市立芸術大学の学生を中心に結成され、建築、美術、デザイン、音楽、ダンスなど異なる表現手段を持つメンバーが参加するアーティストグループ。京都市立芸術大学在学中から海外公演を含めた活動を続け、現在も京都を拠点に、海外公演を中心とした活動を行っている。

展覧会関連イベント

特別アーティスト・トーク

2014年1月3日［金］16:00-17:30
出演：坂本龍一（音楽家）×浅田彰（批評家）×高谷史郎（出品作家）
会場：1階ホール（定員190名）

※本展覧会チケットの半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。
※当日10時より1階受付で整理券を配布します。番号順入場、自由席。
※開場15:30（予定）　※詳細はホームページをご覧ください。

担当学芸員によるフロアレクチャー

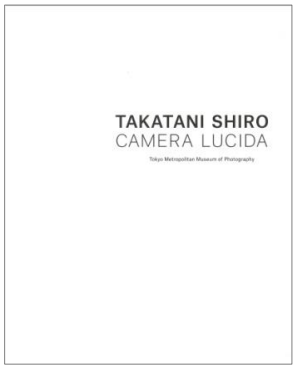
会期中第2･4金曜日16時～
学芸員による展示解説を行います。
本展覧会チケットの半券（当日有効）をお持ちの上、展示室入口にお集まりください。

※やむを得ぬ事情により、関連事業を予告なく変更することがございます。
※その他の関連企画・最新情報につきましては美術館ホームページをご確認ください。

展覧会カタログ

「TAKATANI SHIRO CAMERA LUCIDA」
価格：2,500円（税込）

当館ミュージアムショップ ナディッフ バイテンにて発売中



開催概要

展覧会名: 高谷史郎 明るい部屋
TAKATANI SHIRO Camera Lucida
会 期: 2013年12月10日（火）～2014年1月26日（日）
会 場: 東京都写真美術館 地下1階展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電 話: 03(3280)0099 ホームページ: www.syabi.com
主 催: 東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
開館時間: 10:00～18:00（木・金は20:00 入館は閉館の30分前）
※ただし2014年1月2日・3日は11:00～18:00
休 館 日: 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌火曜日）、
2014年1月2日［木］, 3日［金］は臨時開館（開館時間1 1:00-18:00）
観 覧 料: 一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円
※（ ）は20名以上団体料金 ※東京都写真美術館友の会会員は無料
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料
交通機関: JR恵比寿駅東口より徒歩7分／／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10 分
※当館には専用の駐車場がございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場を
ご利用ください。

お問い合わせ

東京都写真美術館 事業企画課
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Tel. 03-3280-0034／Fax. 03-3280-0033

［展覧会担当］ 田坂 博子 h.tasaka@syabi.com ／ 藤村 里美 s.fujimura@syabi.com
［広報担当］ 久代 明子 a.kushiro@syabi.com ／ 平澤 綾乃 a.hirasawa@syabi.com
前原 貴子 t.maehara@syabi.com

プレス掲載用に図版データをご用意しています。上記広報担当までお問い合わせください。

Shiro Takatani *Camera Lucida*

This first-ever museum exhibition by Shiro Takatani presents a survey of his endeavors, both as artistic director of the internationally known performance art collective Dumb Type, doing video, lighting, graphics and set design for the group, and as a solo visual artist whose imaging [video and photo] works offer deep insights into the natural environment and diverse physical phenomena. Takatani has also collaborated with musicians and artists in many other genres, and most recently unveiled a series of photo works that showcase his interest in optics.

The Latin exhibition title borrows upon philosopher Roland Barthe's discourse on photography *Camera Lucida* [Fr. *La Chambre Claire: note sur la photographie*] (1980). A reference to those optical devices formerly used by painters and draftsmen to project traceable images onto their canvases, the *camera lucida* differed from the earlier *camera obscura* (literally "dark room") devices — pinhole and mirror predecessors to today's cameras — in that they were not enclosed and employed prisms and lenses instead of mirrors. Similarly, with his performance work *La Chambre Claire* (2008) Takatani wanted to "stage a photographic image-fixing process exposed to light instead of in a black box," turning the theater itself into a *camera lucida* device as an approach to Barthe's idea of photography.

Barthes held that photographs essentially revealed "that which was (*celui qui a existé*)." Painting might emulate the look of things, but it does not show things themselves. Whereas photography captures "the scene itself, the literal reality," and so evokes memories and presences in the viewer. Takatani likewise sees photography's capacity to form images as the basis for all media expressions.

Works slated for this exhibition include the installations *Camera Lucida* (2004), *Chrono* (2006) , *Toposcan and Topograch* (premiere; revised version), as well as works selected from the Museum collection o elucidate the history of photographic imaging up to Takatani's endeavors.

Shiro Takatani Biography

Born 1963 in Nara. Graduated in Environmental Design, Kyoto City University of Arts. Joined Dumb Type in 1984. Along with Dumb Type productions, began solo works in 1998. Recent works include *Chroma* (premiered Biwako Hall, 2012; Marseille de Festival danse et arts multiples, 2013), *composition* (Sharjah Biennale 2013); and the collaboration *Life-Well* with Ryuichi Sakamoto and Mansai Nomura (YCAM, 2013).

Events

■Artist talk (in Japanese only)

date and time: Friday 3 January 2014 16:00 – 17:30 doors open 15:30 (tentative)
venue: ground floor hall (190 seats)
speakers: Ryuichi Sakamoto (musician), Akira Asada (critic), Shiro Takatani (artist)
•free admittance to all exhibition ticket stub holders, free seating
•entry by numbers issued at ground floor reception from 10:00

■Curator commentaries

second and fourth Fridays each month and Thursday 2 January 16:00
* open to same-day ticket holders, please assemble at the exhibition entrance
subject to change or cancellation without prior notice
Please check the official webpage for the latest information and updates on related events.

Shiro Takatani *Camera Lucida* exhibition

sponsors: Tokyo Metropolitan Museum of Photography, Sankei Shimbun Co., Ltd.
co-sponsor: Toppan Printing Co., Ltd.
cooperation: NEC Display Solutions, Ltd., Yamaguchi Center for Arts and Media [YCAM], cosmos-tv
support: Sankei Sports, The Fuji Evening News, Fuji Sankei Business i, iza!, SANKEI EXPRESS

dates: Tuesday 10 December 2013 - Sunday 26 January 2014
venue: Tokyo Metropolitan Museum of Photography lower level exhibition space
hours: 10:00 - 18:00 (Thursdays and Fridays until 20:00) last admittance 30 minutes before closing
* Thursday 2 - Friday 3 January 11:00 - 18:00
closed: Mondays (Tuesday if a holiday falls on a Monday), New Year holidays Sunday 29 December - Wednesday1 January
tickets: ¥500 (¥400) general admittance; ¥400 (¥320) university; ¥250 (¥200) high-school, middle school, seniors 65+ ( ) groups of 20 or more *free for seniors 65+ on third Thursdays each month
* free for Friends of the Museum, elementary school children and younger, persons with certified disabilities and their caregivers
access: 7 min walk from JR Ebisu Station, 10 min walk from Tokyo Metro Ebisu Station
* no museum parking, please use pay carkpark facilities nearby

For additional information, contact

Tokyo Metropolitan Museum of Photography Tel. 03-3280-0099 www.syabi.com
Exhibition curators: Tasaka Hiroko／h.tasaka@syabi.com, Fujimura satomi／s.fujimura@syabi.com
Public relations: Kushiro Akiko ／a.kushiro@syabi.com, Hirasawa Ayano ／a.hirasawa@syabi.com, Maehara Takako ／t.maehara@syabi.com